

主任児童委員連絡会活動紹介

コロナ禍において、なかなか活動がままならず、自分達には何が出来るのか？と考える日々が続いています。

そんな時こそ、「中区は中区なりの活動を！」「自分が今できることをできる範囲で、無理なく」をモットーにしてきました。連絡会を自粛した時もありましたが、やはり顔を合わせての連絡会はそれぞれの思いを伝え合うことができる貴重な機会です。

昨年度は中区食育を考える会が作成した『ランチョンマット』を保護者の方へ配布し、食育について考える機会を持ちました。また、SSW^(※)の方々と今の学校・児童・生徒の状況について意見交換をし、実り多い時間を過ごしました。

今後も中区の子ども達の健やかな成長を見守りつつ、活動を広げていきたいと思います。

中区主任児童委員連絡会 代表 大西 尚美
*スクールソーシャルワーカー (School Social Worker)



ランチョンマットについて説明：本牧原ケアプラザ子育てサロンにて

中 区



区会長・副会長研修 開催報告

令和4年5月6日、横浜市健康福祉総合センターにて、横浜市民児協区会長・副会長研修を開催しました。「民生委員・児童委員活動の困難さと活動意欲を高めていくために取り組めること」をテーマにグループワークを行い、近隣関係の希薄化や様々な問題を抱えているケースへの対応の難しさ、担い手の不足等が挙がりました。それらに対する取組みとして、就労している方が参加しやすいように定例会の開催時間の変更やITツールの活用、個別検討会を設け相談しやすい雰囲気を作るなど、それぞれの地区での工夫を挙げていただきました。

愛知東邦大学 西尾敦史教授より、コロナ禍でより活動の難しさや負担感はあるが、今回挙げられた工夫した取組みを、地区の状況に合わせて取り入れていけるといいのではないかと思います。うお話をいただきました。



地区会長研修 参加報告

令和4年6月7日、新装された港南公会堂にて、横浜市民児協地区会長研修会が開催されました。「コロナ禍における民生委員児童委員活動」をテーマに、ルーテル学院大学 市川一宏教授から、会長には傾聴・説得・共感・討議・評価・遂行能力がリーダーとして求められること、定例会は活動内容や情報交換の場として必要であること、コロナ禍だからこそ活動の原点に戻ることが大切であることなどについて、わかりやすく話していただき、有意義な研修会でした。

広報紙作成委員会 杉山 静枝



編集後記

一斉改選前の現メンバーでの最終号です。皆様に読んでもらえ、役に立つ広報紙を目指し、編集をしてきました。

この3年間は、新型コロナウイルス感染拡大が続く中で、民生委員・児童委員活動が制限され、通常の日常活動が困難となる中、新しい生活様式に合わせた活動のあり方・方法などを模索し、創意・工夫をしている姿を共有し、少しでも活動の参考になるよう編集に努めてきました。

コロナウイルスの収束はまだ見えません。今後も、情報共

有を進め活動の参考となる広報紙作成に努めていきます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

広報紙作成委員会 委員長 吉村 春美

【委員長】 吉村 春美
【顧問】 石井 マサ子
【委員】 小林 政晴 梁田 理恵子 杉山 静枝
井上 力 峰松 雅子 松浦 正義
紅林 千津子 川原 裕美子



よこはま民児協だより

令和4年9月発行
横浜市民生委員児童委員協議会
横浜市中区桜木町 1-1
☎ 045-201-8618
<http://www.yokohamashakyo.jp/minsei/index.html>

No. 46

一斉改選に向けて

令和4年度一斉改選に向けて、自治会町内会等への手続き説明会も終わり、8月まで候補者推薦のための地区推薦準備会が各地域で開催されています。今期は令和元年(2019年)12月からスタートしましたが、それは新型コロナウィルスの発生が報告された時期とほぼ重なります。委員活動は大きな影響を受け、定例会や研修、地域の住民が集う活動の実施が難しい日々が続きました。特に新任委員は活動経験、研修の機会が十分に持てなかったのではと思います。

今期明らかになった課題への対応や工夫に取り組み活動を積み重ねていった地域もあったことでしょう。そこで得られた経験はきっと今後の活動の糧になります。いまこそ民生委員児童委員は、今期の活動を振り返り、それを基にこれからの活動を展開していただきたいと思います。

横浜市民生委員児童委員協議会 会長 宮田 光明



第82回 関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会

参加報告

令和4年7月28日(木)～29日(金)の2日間、静岡県浜松市にて令和4年度第82回関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会が開催され、横浜市民児協理事8名、事務局2名で参加しました。

1日目は全体会と記念講演が行われ、樹木医の塚本こなみ氏より「心根(こころね)を育てる」というテーマでお話いただきました。

2日目は分科会協議が行われ、「活動強化方策」、「持続可能な委員活動の継承と人材育成」、「児童虐待防止」といったテーマで、各民児協より実践報告がありました。横浜市からは加山勢津子理事(横浜市民児協代表/神奈川区)が、分科会「児童委員、主任児童委員活動と理解を広げるための取り組み」にて実践報告を行いました。市域での活動に加え、神奈川区におけるすくすくかめっ子事業(親子の居場所・交流拠点)やこども支援ネットワーク、そして地区で実施されているてんこもりのわ(地域の居場所)などの活動の経験から、1人で活動するのではなく、自治会町内会や関係機関など周囲の方々と連携して日々活動を行うことが、児童委員・主任児童委員の理解を広げるきっかけとなっていることを発表しました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、一部内容を変更しての開催となりましたが、数年ぶりに18都県・指定都市民児協が一堂に会して情報交換が行われ、有意義な2日間となりました。



加山理事による実践報告



横浜市の参加者の皆さん

コロナ禍の 3年間の振り返り



令和4年12月は、3年に1度の一斉改選が行われます。

令和元年の一斉改選では、市内全民生委員・児童委員のおよそ1/4にあたる1,199名の委員を新たにお迎えしました。各地域で新体制での活動を進めようとしていた矢先、新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態に直面し、地域活動だけでなく、私たちの生活そのものが一変しました。このような状況の中、身近な地域の相談相手として、方法を模索しながら活動を続けてくださった委員の皆様、お疲れさまでした。

46号では、コロナに向き合い、工夫を凝らした3年間の様子をまとめました。各地区民児協など身近な委員同士で、次期に向けて振り返りの機会を持っていいただければ幸いです。

国内のコロナ対応

- 2020年**
- 1月 国内で初の感染者を確認
 - 3月 小中学校、高校等の臨時休校
 - 4月 第1回目の緊急事態宣言発令
- 2021年**
- 1月 第2回目の緊急事態宣言発令
 - 2月 ワクチン接種開始
 - 4月 第1回まん延防止等重点措置
第3回緊急事態宣言発令
(神奈川県は対象とならず)
 - 7月 第4回緊急事態宣言
(神奈川県は8月2日から適応)
- 2022年**
- 1月 第2回まん延防止等重点措置

横浜市民児協の動き

- 理事会、評議員会が書面開催に (計6回)
- 「新型コロナウイルス感染拡大防止に留意した民生委員・児童委員活動について」、「活動チェックリスト」を発出
- 研修を集合、動画配信、DVD貸出の形式で開催
- 理事会、評議員会、主任児童委員連絡会のオンライン実施
- 「新しい生活様式での民生委員児童委員活動を進めるための補助金」設置
- 「新しい生活様式に合わせた民生委員・児童委員活動事例集」作成、配布

広報紙作成委員会でも、コロナ禍の3年間の振り返ってみました



今まで通りの活動ができない…

- 見守りができないことが最も課題に感じた。
- 研修や引継ぎなど新任委員へのサポートが十分にできなかった。
- イベントの準備の時間が委員同士の親睦を深める機会になっていたが、開催できなくなりコミュニケーションをとる場が減少した。



コロナ禍で工夫して、できるようになったことも！

- オンラインの使い方を知ることができた。災害時などにも活用できそう。
- スマホやLINEを活用し、情報交換の幅が広がった。写真などのより詳細な情報をすぐに共有できる点が便利である。
- 研修が後日動画で見られることで、都合のいい時間に受講できるようになった。繰り返し学ぶこともできる。
- 活動を一から見直す機会となった。

改選を迎え、新たな体制で
コロナと付き合いながらの活動が
スタートします。
仲間と話し合える関係をつくり、
みんなで一緒に支え合って
活動していきましょう！



地区民児協 活動報告

西 栄 泉

毎号3区ずつ、
特徴的な取組みをしている地区を
取り上げていきます。

西区 第一地区

コロナ禍の影響を受け、私たち民生委員・児童委員(「民生委員」と見守り対象者が築き上げてあげていた「顔の見える関係」)にはほろびが生じていたのではないかと考えています。「今ひとつしっくりとこない」「以前の様な感触が得られない」という声が民生委員の中でありました。

そうした中、何か目標を作って、重点的にその活動をして、とにかく徹底的に対象者と話そうという声があがり、今年度は「あんしんカード」の取組の充実を図ることとしました。「あんしんカード」とは、西区独自で作成し、自治会・町内会や民生委員が中心となって高齢者等に配布しているカードです。A4版の厚紙の両面に救急隊からも必要とされる情報(緊急連絡先・身近な相談先・かかりつけ医等)の記入欄が印刷されており、何かあった時の重要な情報源となっています。市の75歳以上ひとり暮らし高齢者等訪問活動時には必ず配布し、必要に応じて記入の手伝いもしています。

このカードは、私たちと対象者を結ぶ太いキズナとなっており、このキズナを使って当地区の民生委員活動を、コロナ禍前以上に充実したものにしていきたいと考えています。

会長 神戸 英男

栄区 上郷西地区

上郷西地区は7自治会、町内会3,700世帯で昭和50年頃に開発整備された地域です。その頃から住み続けている方が多く高齢化が進んでいますが、季節の花々が街を彩っている優しい住みやすい地域でもあります。

コロナ禍で制限はありましたが、ウェブ会議等も取り入れながら定例会を開催し、委員同士の連絡と情報交換はラインのグループで行い災害時等の情報を共有しています。各地域のサロン活動は会場の都合がつく限り開催してコロナ禍ではあっても見守り活動ができました。

また、地域福祉保健計画の子育て世帯支援、高齢者支援、障害者支援チームに積極的に参加し地域の課題を知ること、どんな支援が必要であるか等、これからの民生委員活動に役立てています。

会長 本田 桂子



泉区 上飯田団地地区

市営団地の中で、10名で活動しています。

高齢者や障害がある方が多く、見守り活動が中心です。民児協だけでは活動が難しいため、連合自治会、地区社協と共に地域のつながりを大切に、毎週水曜日のコミュニティサロン、月1回の地区社協サロン、年4回の地域ケアプラザ主催のいきいきサロンと、サロン活動も行っています。また、年4回区役所、ケアプラザ、区社協や地域の関係機関と自治会が協力し、高齢者支援会議を開き情報を交換しています。

活動する中では、「開催する側の都合で予定を変更しないこと」「いつ来ても決められた日には居場所があること」「困ったときには『助けて』の手をあげられるように声かけを忘れないこと」を心がけています。

会長 佐野 瞳

